

# まい 埋やち

No.15  
千葉県八千代市  
埋蔵文化財通信

2007.10.20

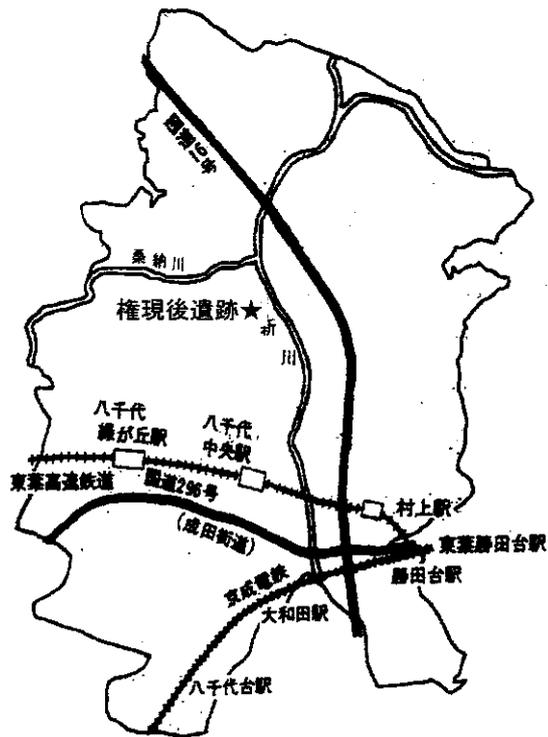
## 権現後（ごんげんうしろ）遺跡特集

萱田の飯綱神社境内には、八千代市文化伝承館という施設があります。今回は、平成7年に、この施設の建設に先行して調査された権現後遺跡について紹介します。

**【権現後遺跡の位置】** 権現後遺跡は、八千代市の中央部の萱田に所在し、（現在は、ゆりのき台の住宅街の一角となっています。）萱田の飯綱神社とその周辺一帯が遺跡の範囲になります。遺跡の東側には新川が流れ、小高い台地の上に立地し、飯綱神社からの眺めはなかなかのものです。ゆりのき台は、昭和52年から（財）千葉県文化財センターによって大規模な発掘調査が行われた地区で、権現後遺跡もその時に大部分が調査されました。権現後遺跡の周辺にはヲサル山遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡などが連なり、萱田遺跡群と呼ばれています。現在のゆりのき台は、20年以上昔の萱田を知る人にとっては、まさに隔世の感があるでしょう。

**【遺跡の概要】** 権現後遺跡は旧石器時代～近世に至る複合遺跡で、文化伝承館建設に伴う八千代市の調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡3軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒、近世の溝1条と土坑2基が見つかりました。（財）千葉県文化財センターで行われた調査とあわせて時代順に見ていきたいと思えます（次ページ表参照）。

まず、旧石器時代では、6層の石器が出土した層が見つかり、その中に24か所の石器



集中地点が見つかりました。最も古い層からは、<sup>まじくぼせいせきよ</sup>局部磨製石斧（約3万年前・次ページ参照）が出土しています。

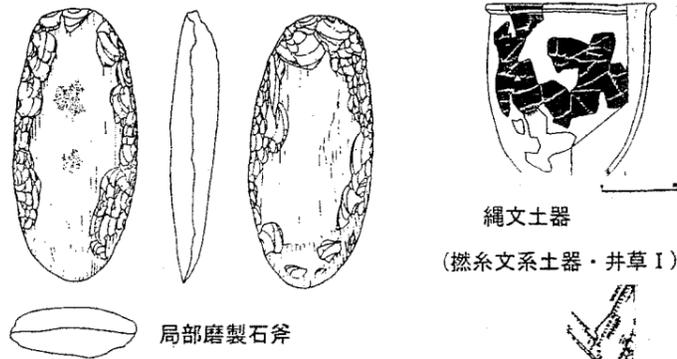
縄文時代では、縄文時代早期～後期の縄文土器が出土しています。量的には早期の土器と後期の土器が比較的多く出土しています。中でも早期撚糸文土器（井草Ⅰ式・約9000年前）は、八千代市内においても最古級の縄文土器となります。

続く弥生・古墳時代では、弥生時代後期に市内でも有数の集落遺跡として展開する時期が訪れます。全体として73軒の竪穴住居跡、3基の方形周溝墓が検出され、市内では、92軒が調査された栗谷遺跡に次ぐ規

調査遺構一覧

遺跡名	縄文					弥生後期～古墳前期			奈良・平安		
	早期	前期	中期	後期	晩期	住居	周溝墓	中期	後期	住居	掘立柱
菅地ノ台	陥穴 1	-	-	-	-	住居 7 周溝墓 1	住居 6 周溝墓 2		0	住居 26 掘立柱 16	
権現後 (県センター)	○	○	○	○	-	住居 73 周溝墓 3	住居 5	住居 10		住居 68 掘立柱 21	
権現後 (八千代市)	○	-	-	○	-	○	-	住居 3	住居 1		
ヲサル山	炉穴 19 陥穴 1	○	住居 1 小竪穴 1 ピット 1	住居 3	○	住居 34 周溝墓 3	-	-		住居 2 掘立柱 1	

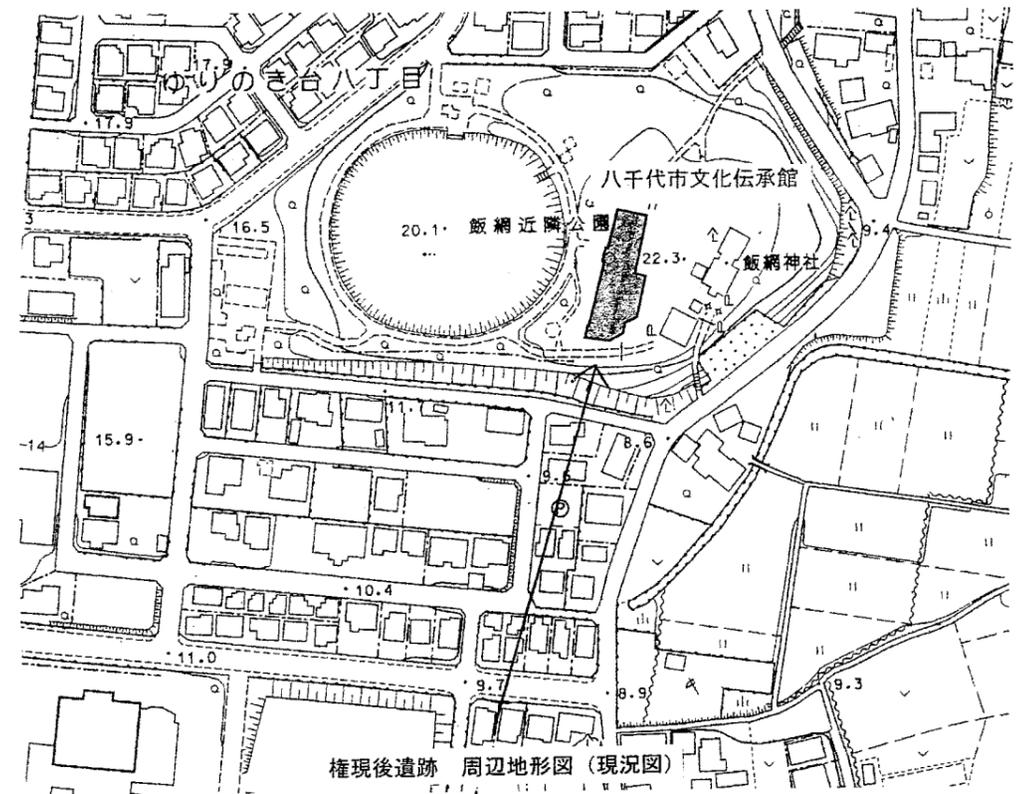
※○は出土遺物あり



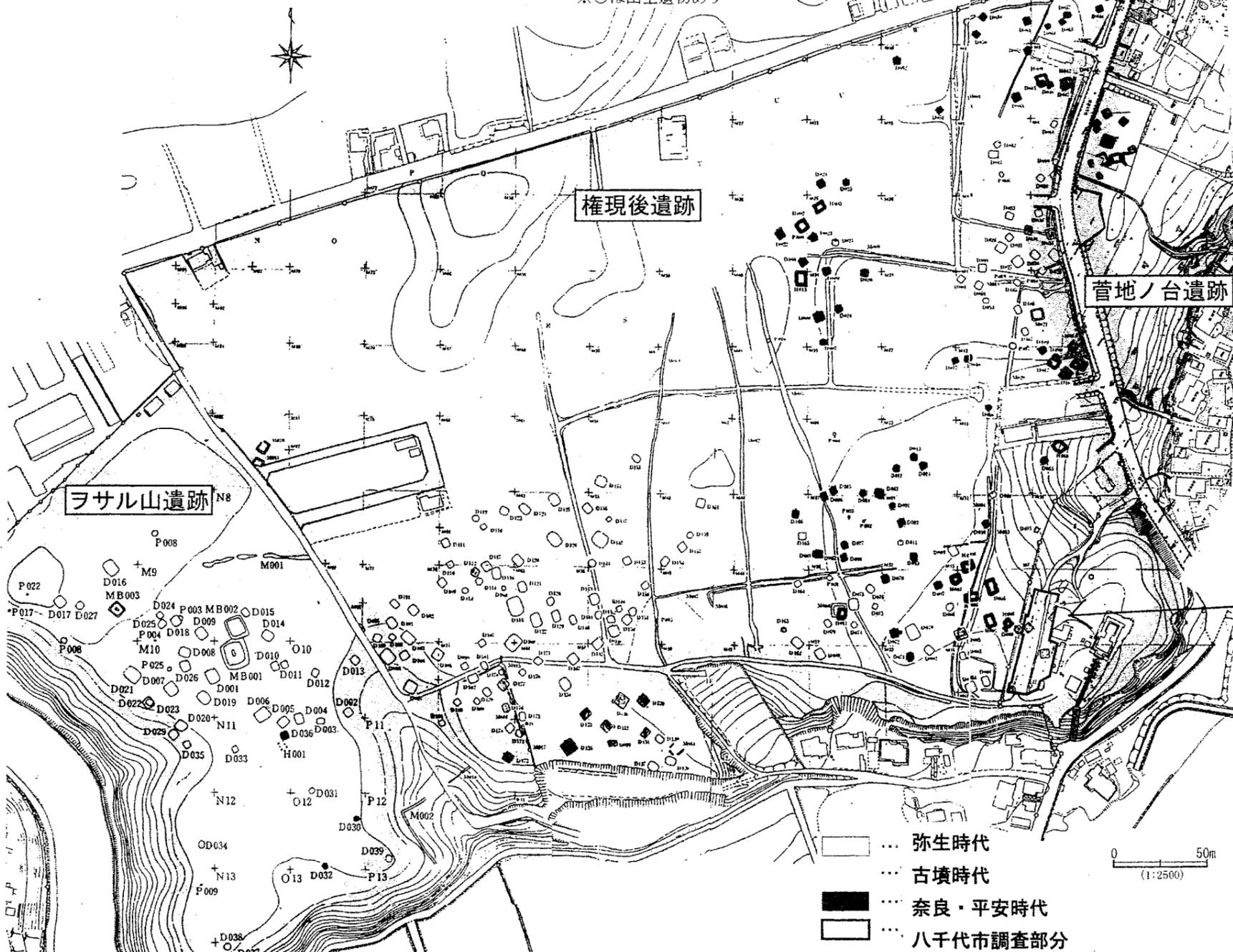
縄文土器  
(燃糸文系土器・井草 I)

局部磨製石斧

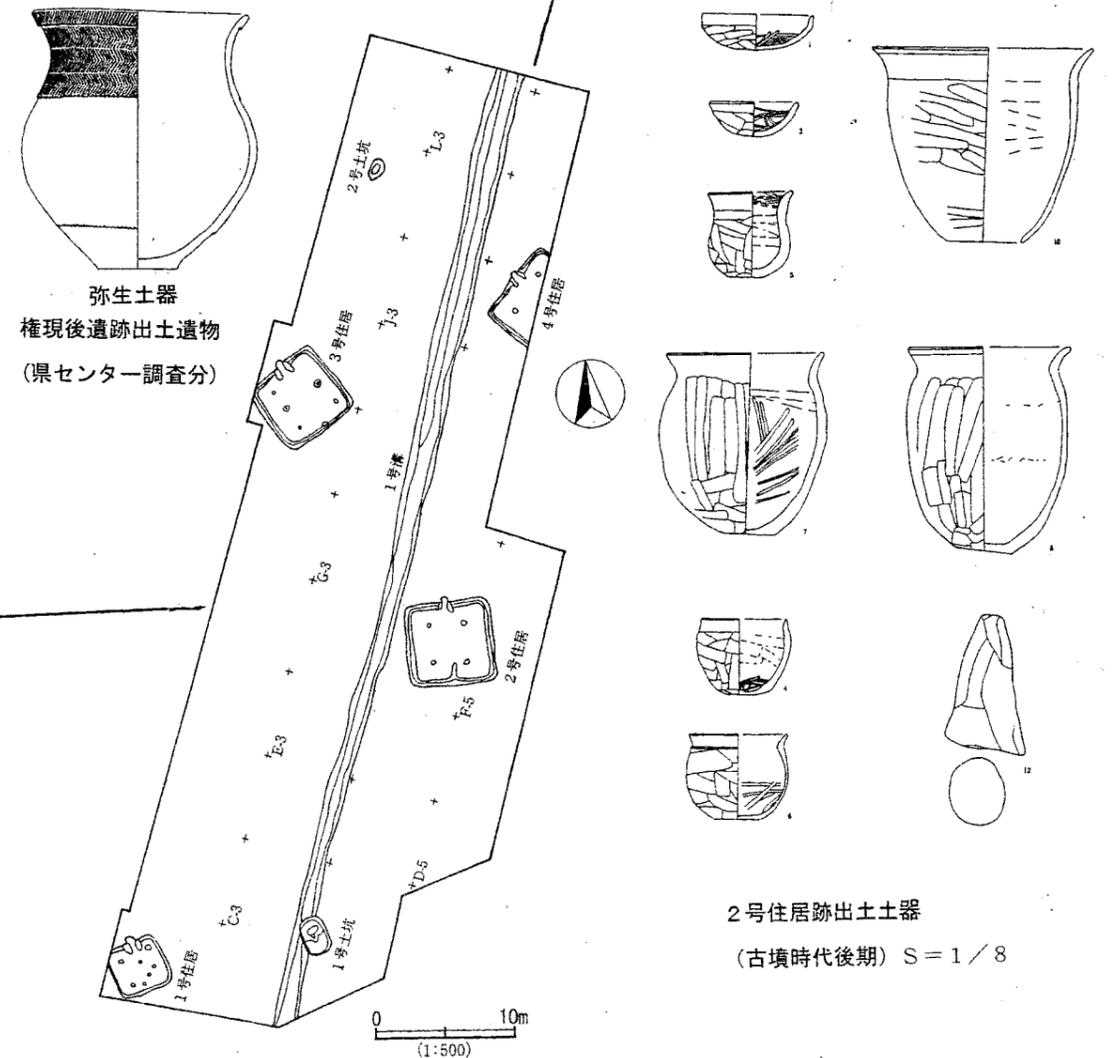
権現後遺跡出土遺物  
(県センター調査分)



権現後遺跡 周辺地形図 (現況図)



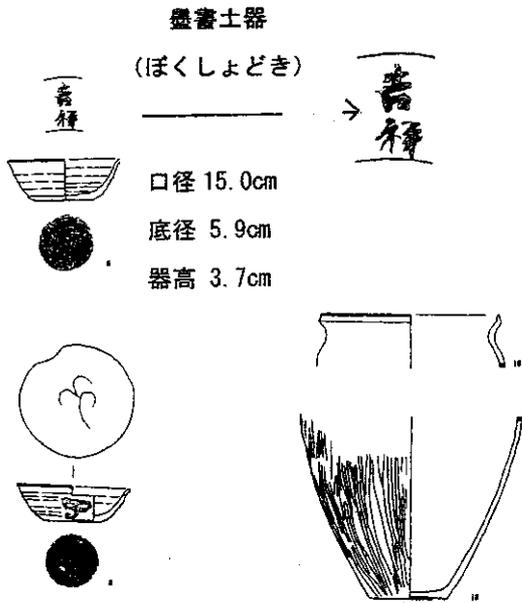
権現後遺跡・ヲサル山遺跡・菅地の台遺跡遺構配置図



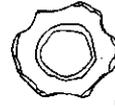
弥生土器  
権現後遺跡出土遺物  
(県センター調査分)

2号住居跡出土土器  
(古墳時代後期) S=1/8

今回の調査地点における遺構配置



鉄鉢形土器



托(たく)



鉄鉢を持った僧侶

1号住居跡出土土器

(奈良・平安時代) S=1/8

模となります。古墳時代前期では、32軒の堅穴住居跡が調査されました。古墳時代中期以降、集落の規模が縮小し、堅穴住居跡数は5軒となります。後期になると10軒の堅穴住居跡が調査され、八千代市の調査で新たに3軒の堅穴住居跡が加わり、合計で13軒となりました。

奈良・平安時代に至ると、再び集落の規模は拡大し、堅穴住居跡68軒、掘立柱建物跡21棟が調査されています。伝承館の調査で更に1軒の堅穴住居跡が調査され、合計69軒となりました。

権現後遺跡の奈良・平安時代の遺物で注目されるものは、文字が墨で書かれた土器(墨書土器と呼ばれています)が多量に出土していることです。特に長文で人名、年号が書かれた墨書土器が出土していることから、古代の下総国印旛郡の地域研究に多大の資料を提供しています。

八千代市の調査した奈良・平安の堅穴住居跡からは、「吉祥」と書かれた墨書土器が出土しました。また、同じ堅穴住居跡から「鉄鉢形土器」や「托」と言われる仏教用具が出土したことも注目されます。この堅穴住居跡は、ムラの中の「お堂」的な性格があったのかもしれませんが。

中世以降では、近世の土坑1基と時期不明の溝跡1条が調査され、八千代市調査で新たに近世の溝跡1条と土坑2基が加わり、合計、溝跡2条と土坑3基となりました。

以上、概要を見てきましたが、権現後遺跡の調査を終え、現在、文化伝承館は飯綱神社境内に静かにたたずんでいます。飯綱神社は、八千代市の指定文化財も多くあり、出土品の一部は、文化伝承館内に展示されています。是非、お立ち寄りいただければと思います。(宮澤)

埋(まい)やちよ No.15

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成19年10月20日

編集・発行 八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田138-2

☎276-0045 ☎047(481)0304

—編集後記—

今回は、村上の辺田前土地区画整理事業の際に調査が行われた浅間内遺跡の続編を特集します。